

## 第8 企業会計決算の状況

---

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

### 1 水道事業の概況

営業関係では、北中勢水道用水供給事業（北勢系・木曾川用水系：給水能力80,300<sup>m</sup><sup>3</sup>／日、北勢系・三重用水系：給水能力51,000<sup>m</sup><sup>3</sup>／日、北勢系・長良川水系：給水能力18,000<sup>m</sup><sup>3</sup>／日、中勢系・雲出川水系：給水能力81,416<sup>m</sup><sup>3</sup>／日、中勢系・長良川水系：給水能力58,800<sup>m</sup><sup>3</sup>／日）及び南勢志摩水道用水供給事業（給水能力139,850<sup>m</sup><sup>3</sup>／日）の2事業を運営し、令和元年度は県内18市町に対し、延べ76,548,013<sup>m</sup><sup>3</sup>の給水を行いました。

令和元年度の営業成績について、事業収益は9,059,925千円（対前年度比101.3%）で、内訳は、営業収益8,197,884千円（対前年度比101.4%）及び営業外収益862,041千円（対前年度比99.7%）であり、また、事業費用は8,888,301千円（対前年度比103.3%）で、内訳は、営業費用8,454,623千円（対前年度比104.1%）及び営業外費用433,678千円（対前年度比89.1%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額171,625千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに水道用水の安定供給を図るため、北中勢水道用水供給事業及び南勢志摩水道用水供給事業において耐震化や老朽化対策などの施設改良を計画的に実施しました。

令和元年度損益計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	8,454,623	営業収益	8,197,884
原水及び浄水費	2,361,171	給水収益	8,183,942
配水費	647,822	その他営業収益	13,942
業務費	471,153		
総係費	359,432		
減価償却費	4,236,489		
資産減耗費	378,556		
営業外費用	433,678	営業外収益	862,041
支払利息	409,074	受取利息	1,992
受託工事費	20,621	他会計補助金	48,697
雑支出	3,982	受託工事収益	20,621
		長期前受金戻入	789,015
		雑収益	1,717
当年度費用合計	8,888,301		
当年度純利益	171,625		
合 計	9,059,925	合 計	9,059,925

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和元年度損益計算書＜P/L＞（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
営業費用 8,454,623 (93.3%)	営業収益 8,197,884 (90.5%)
営業外費用 433,678 (4.8%)	営業外収益 862,041 (9.5%)
当年度純利益 171,625 (1.9%)	

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

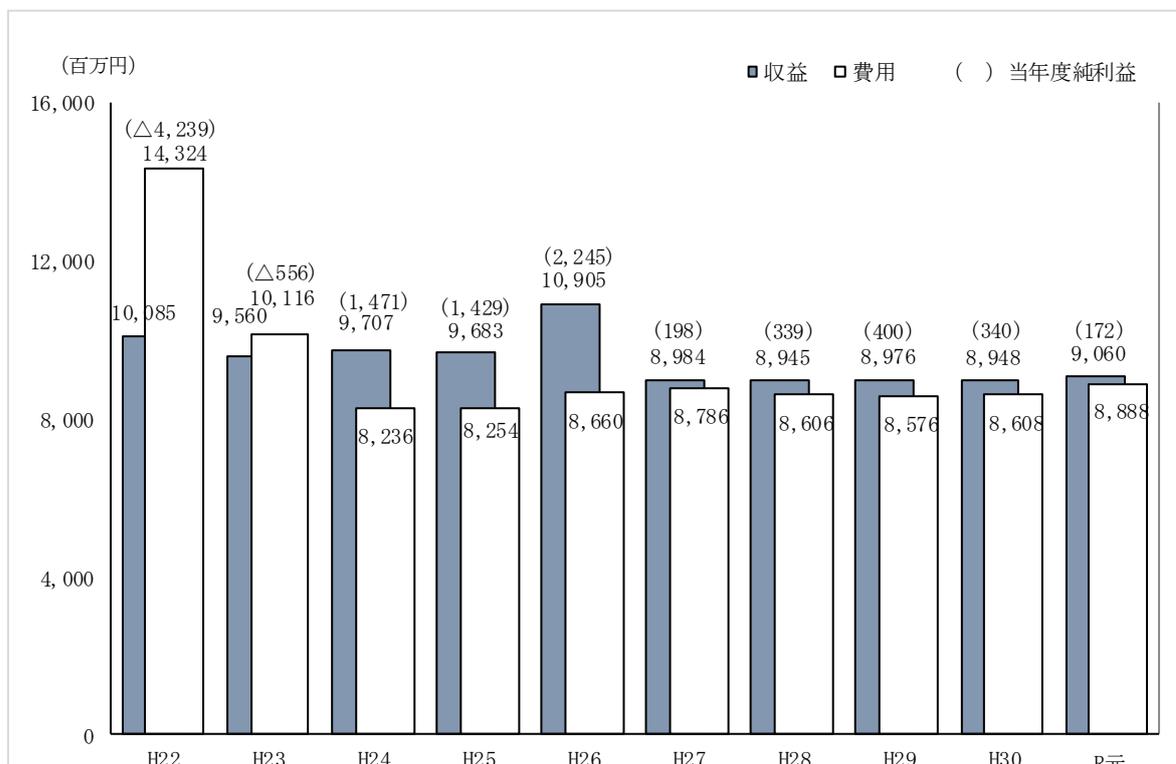
貸借対照表<B/S> (令和2年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借方	貸方
固定資産 121,550,574 (91.0%)	固定負債 17,905,607 (13.4%)
	流動負債 2,731,673 (2.0%)
	繰延収益 22,038,976 (16.5%)
	資本金 89,484,503 (67.0%)
流動資産 11,990,874 (9.0%)	剰余金 1,380,689 (1.0%) 資本剰余金 869,153 利益剰余金 511,536

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

## 2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 754,890 m<sup>3</sup>/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 14,370 m<sup>3</sup>/日）及び松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m<sup>3</sup>/日）の3事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、令和元年度においては104工場に対し、延べ216,865,542 m<sup>3</sup>の工業用水を供給しました。

令和元年度の営業成績について、事業収益は5,772,159千円（対前年度比100.1%）で、内訳は、営業収益5,393,385千円（対前年度比102.0%）、営業外収益378,774千円（対前年度比95.9%）であり、また、事業費用は5,420,625千円（対前年度比101.6%）で、内訳は、営業費用5,202,360千円（対前年度比105.3%）、営業外費用218,265千円（対前年度比88.9%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額351,534千円が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業では、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

令和元年度損益計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	5,202,360	営業収益	5,393,385
原水及び浄水費	1,788,055	給水収益	5,185,689
配水費	364,686	その他営業収益	207,695
業務費	346,159		
総係費	288,861		
減価償却費	2,314,838		
資産減耗費	99,762		
営業外費用	218,265	営業外収益	378,774
支払利息	215,418	受取利息	740
受託工事費	1,099	他会計補助金	2,780
雑支出	1,748	受託工事収益	1,099
		長期前受金戻入	363,101
		雑収益	11,054
当年度費用合計	5,420,625		
当年度純利益	351,534		
合 計	5,772,159	合 計	5,772,159

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和元年度損益計算書<P/L> (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(単位：千円、%(構成比))

借方	貸方
営業費用 5,202,360(90.1%)	営業収益 5,393,385(93.4%)
営業外費用 218,265(3.8%)	営業外収益 378,774(6.6%)
当年度純利益 351,534(6.1%)	

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

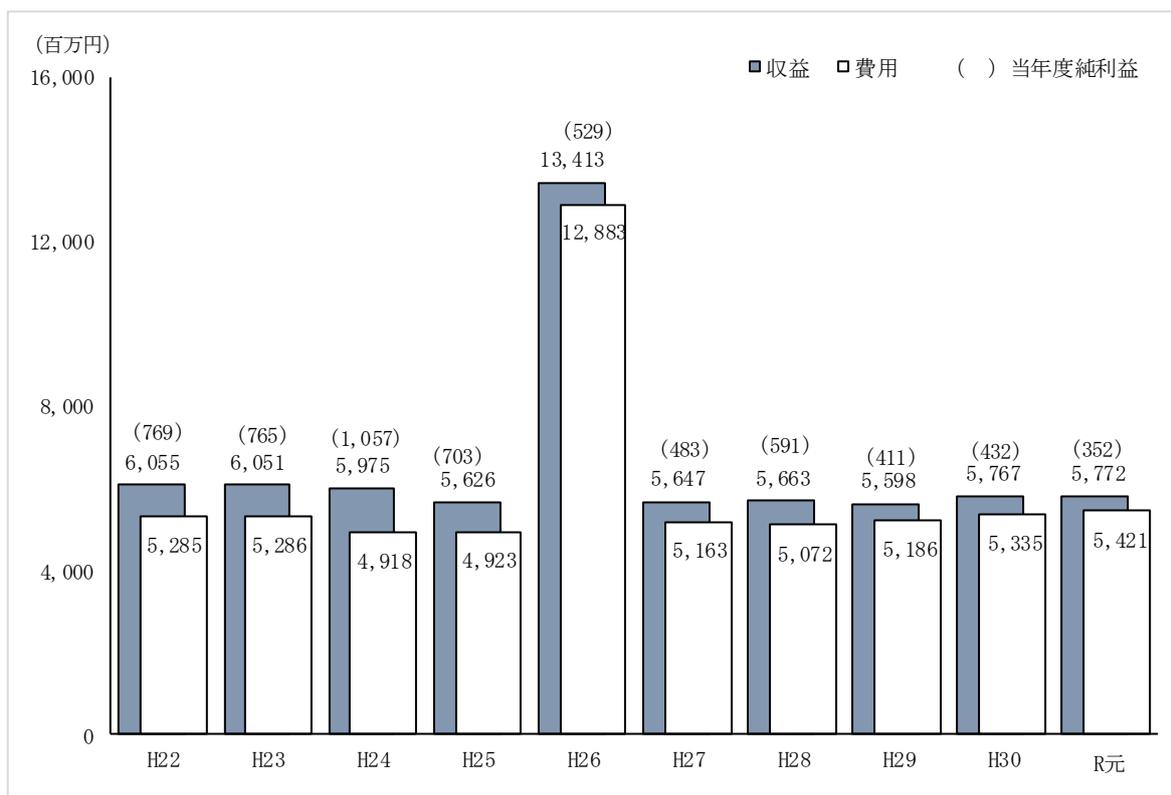
貸借対照表<B/S> (令和2年3月31日現在)

(単位：千円、%(構成比))

借方	貸方
固定資産 109,581,059(93.2%)	固定負債 22,241,334(18.9%)
	繰延収益 17,184,598(14.6%)
	資本金 74,664,634(63.5%)
流動資産 8,024,248(6.8%)	流動負債 1,502,568(1.3%)
	剰余金 2,012,172(1.7%)
	資本剰余金 1,228,710
	利益剰余金 783,461

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

### 3 電気事業の概況

RDF焼却・発電事業については、三重ごみ固形燃料発電所において、製造団体からRDF 19,823 トンを受け入れ、28,781,800 kWh の発電を行いました。

令和元年度の営業成績について、事業収益は 679,800 千円（対前年度比 47.7%）で、内訳は、営業収益 604,817 千円（対前年度比 43.8%）、営業外収益 21,312 千円（対前年度比 48.2%）及び特別利益 53,671 千円（対前年比皆増）であり、事業費用は 1,389,232 千円（対前年度比 66.1%）で、内訳は、営業費用 1,144,247 千円（対前年度比 56.3%）、営業外費用 495 千円（対前年度比 126.3%）及び特別損失 244,490 千円（対前年度比 342.4%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額 709,432 千円が当年度の純損失となりました。

令和元年度損益計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

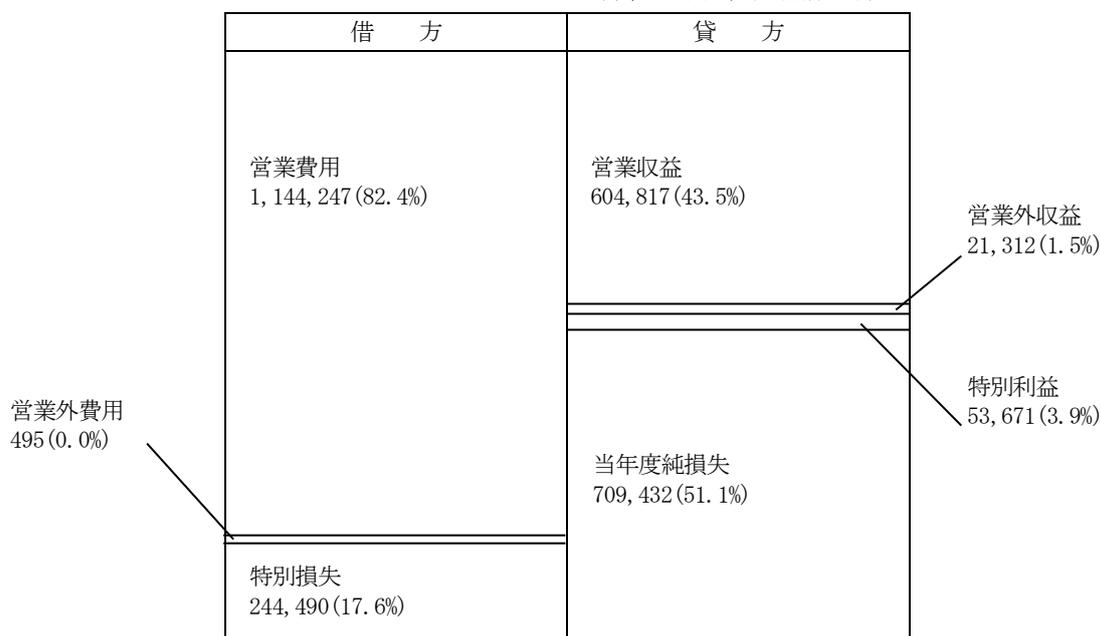
（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	1,144,247	営業収益	604,817
RDF発電費	968,719	電力料	324,346
一般管理費	175,528	その他営業収益	280,471
営業外費用	495	営業外収益	21,312
支払利息	80	受取利息	1,435
雑支出	415	他会計補助金	640
		長期前受金戻入	18,956
		雑収益	281
特別損失	244,490	特別利益	53,671
減損損失	244,490	その他特別利益	53,671
		当年度収益合計	679,800
		当年度純損失	709,432
合 計	1,389,232	合 計	1,389,232

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

令和元年度損益計算書＜P/L＞（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））



（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

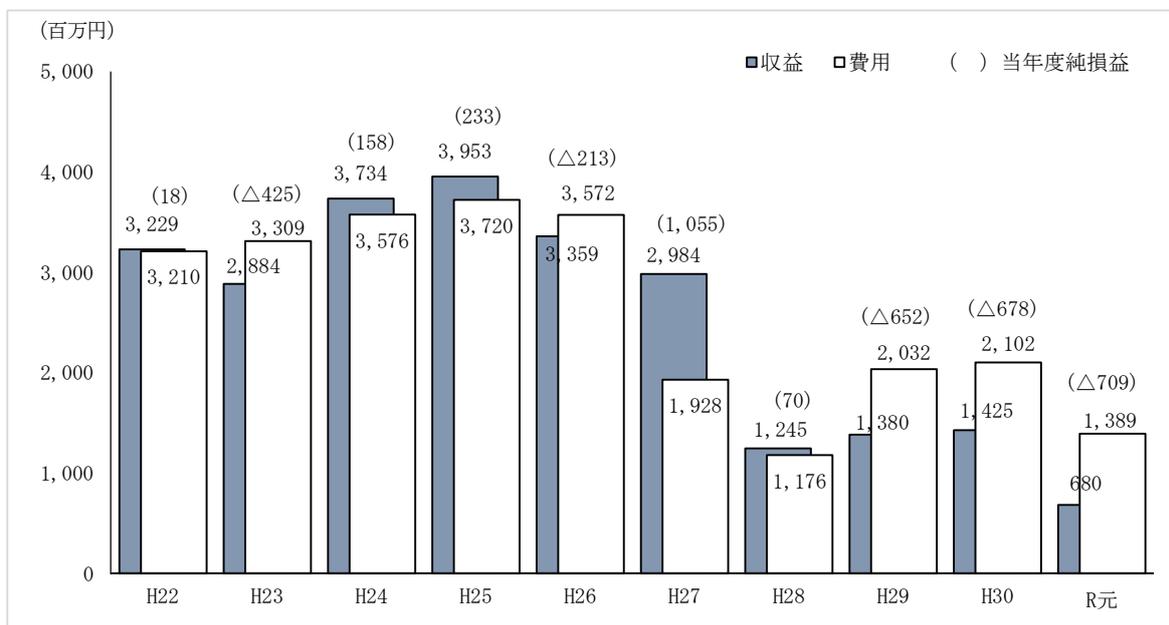
貸借対照表<B/S> (令和2年3月31日現在)

(単位：千円、%(構成比))

借 方	貸 方
固定資産 1,265,958 (12.9%)	固定負債 155,215 (1.6%)
流動資産 8,567,169 (87.1%)	流動負債 82,667 (0.8%)
	資本金 12,963,625 (131.8%)
	剰余金 △3,368,380 (△34.3%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

## 4 病院事業の概況

三重県病院事業においては、こころの医療センター、一志病院及び指定管理者制度を導入している志摩病院の3病院を管理運営し、県民の皆さんや地域に信頼され、かつ医療従事者にとって魅力ある病院づくりを進めながら、良質で満足度の高い医療サービスを提供しているところです。

令和元年度は、こころの医療センターにおいては、県内の精神科医療の中核病院としての取組など、一志病院においては、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの取組など、それぞれの役割やニーズに応じた病院運営を行うとともに、経営の健全化に取り組んできました。また、志摩病院においては、指定管理者である公益社団法人地域医療振興協会により、診療機能の充実を図りながら、志摩地域の中核病院としての取組を進めました。

これらの3病院の運営状況については、入院患者数が延べ181,389人（1日平均495.6人）、外来患者数が延べ141,879人（1日平均591.2人）で、前年度に比べ入院患者数は延べ5,627人の減少、外来患者数は延べ8,033人の減少となりました。

収益については、医業収益において入院及び外来収益が減少した一方で、医業外収益において一般会計からの繰入金等が増加したことなどから、経常収益は5,283,876千円となり、前年度に比べ1.2%増加しました。

また、費用については、医業費用において経費等が増加した一方で、給与費等が減少したことなどから、経常費用は5,262,423千円となり、前年度に比べ0.6%減少しました。

その結果、これらを差引した経常損益は21,453千円の黒字となりました。

なお、建設改良費については、こころの医療センターにおける蒸気ボイラー（2号機）更新工事や一志病院における非常用発電機設備更新工事、志摩病院における病棟エレベーター改修工事等により総額395,495千円を執行しました。

令和元年度損益計算書（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	5,044,550	医業収益	2,747,206
給与費	2,748,618	入院収益	2,103,562
材料費	261,874	外来収益	486,464
経費	1,448,472	その他医業収益	157,180
減価償却費	568,679		
資産減耗費	7,164	医業外収益	2,536,670
研究研修費	9,743	受取利息配当金	130
医業外費用	217,873	他会計補助金	141,890
支払利息及び企業債取扱諸費	103,127	長期前受金戻入	240,661
長期前払消費税償却	26,416	補助金	5,017
患者外給食材料費	240	負担金・交付金	1,952,575
雑損失	88,090	その他医業外収益	196,397
特別損失	0	特別利益	0
当年度費用合計	5,262,423		
当年度純利益	21,453		
合 計	5,283,876	合 計	5,283,876

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

損益計算書＜P/L＞（平成31年4月1日～令和2年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方		貸 方	
		医業収益	2,747,206 (52.0%)
医業費用	5,044,550 (95.5%)		
		医業外収益	2,536,670 (48.0%)
医業外費用	217,873 (4.1%)		
特別損失	—		
当年度純利益	21,453 (0.4%)	特別利益	—

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

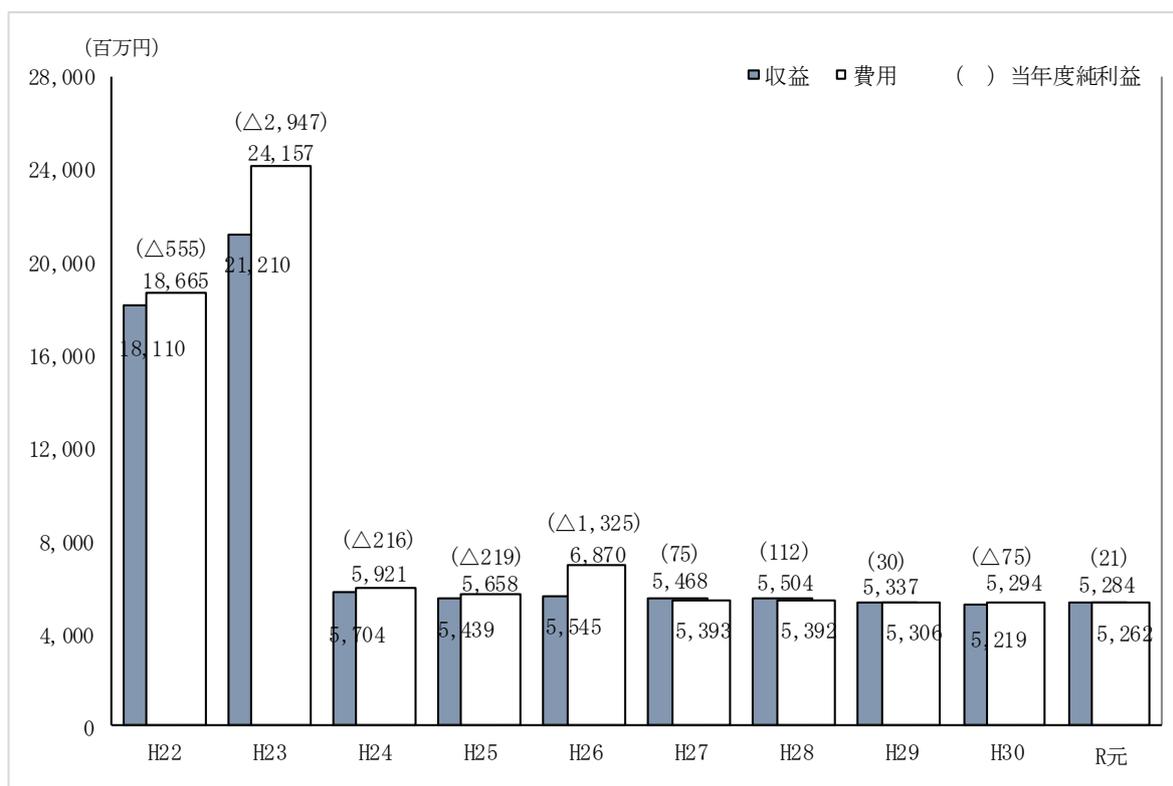
貸借対照表<B/S> (令和2年3月31日現在)

(単位：千円、%(構成比))

資 産		負債・資本	
固定資産	8,519,245 (87.4%)	固定負債	12,717,618 (130.5%)
		流動負債	1,271,245 (13.0%)
		繰延収益	3,296,197 (33.8%)
		資本金	311,410 (3.2%)
流動資産	1,228,911 (12.6%)	剰余金	△7,848,314 (△80.5%)
		資本剰余金	1,371,554
		欠損金	9,219,868

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)